

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500774		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウスごらく 1階		
所在地	愛知県名古屋市長区極楽2丁目232番地		
自己評価作成日	令和元年 8月 9日	評価結果市町村受理日	令和元年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2371500774-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和元年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人では出来ない事も、利用者同士で相談し、助け合いながら、自分達で生活をされています。職員は、それを見守る事で本当に必要なところだけを見極め、支援し、利用者のできることの継続と、新たな発見に努めています。利用者、職員と共に生活し、家族のような温かい関係性を築き、生きる楽しみ、生甲斐に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念(基本方針)に地域住民との心の触れ合いや開かれた生活環境を謳っている。常に一つ一つの支援が理念に結びついているかを意識し、互いに確認し合いながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が地域のスーパーやお店に通い、職員はその仲介をし、顔馴染みの関係性を構築している。また、回覧板を回したり、地域行事に積極的に参加するなどし、一人の住人であるという意識を双方に根付かせる支援を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験実習を受け入れている。地域の方より相談を受けた時は、それに応じ、力になれるよう情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告すると共に、地域に理解を得たいこと、自然に地域と関わられるよう、相談し、協力を依頼している。また、率直な意見を頂き、サービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や来所時に現場の状況や考え方を報告し、取り組み等の情報も伝えている。話題に上がったことや、問題が発生した場合は、早期実現・解決に向けて地域包括センター等に協力を仰いでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守る事を基本とし、利用者一人一人において何が拘束になるのかを具体的に話し合い、職員間の意識を統一している。言葉一つ一つを大切に、対応に当たるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	振り返りや話し合いの場を設け、普段何気なく行っている関わりが虐待に当たるのか否かを考え、意見を出し合っている。その都度、注意し合う事で、見過ごし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修などで学ぶことができる。利用者の状況に合せ、必要なものを活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、変更時等は個別面談をし、理解・納得を得るよう努めている。また、随時、不安や疑問点の解決が出来るような間柄を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の思いに気付けるよう、日頃から何気ない会話から様々な気持ちを汲み取っている。その思いを実現する為に、出来る事は全て取り組む。また、実現不可能な要望に対しては、理由をしっかりと説明し、理解を得るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の会議や個別面談時等、意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の具体的な状況を把握し、給与水準・労働時間等の環境を整えている。日々の努力や実績、勤務状況を把握し、処遇に反映することで向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性と力量を把握したうえで、立場や経験に応じた研修の機会の確保に努めている。研修により学習したことを実際の現場で実施し、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として積極的に全国の同業者との交流機会を職員に推進し、広く視野や見識を得ることで、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは安心して頂けるように気持ちを受け止め、共に考え、悩みに向き合っている。 その積み重ねにより信頼関係を築き、話し易い関係性を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や入居申し込み面談時に、じっくり時間をかけて、話に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と情報を共有し、しっかり思いを受け止め、必要な支援を見極めていく。 また、必要に応じて他の介護サービスについての説明、提案をすることで、様々な選択肢の中から、家族と共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、他利用者含め、生活を共にする家族のような存在と位置づけ、互いに支え合い、意見を言い、同じ立場で生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時には家族が利用者の部屋に泊まり、家族と利用者との過ごす時間を出来る限り多く取ってもらうなど、昼夜を問わず共に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が今まで築いてきた馴染みの人や馴染みのお店等との関係性を大切に、気軽に訪問、外出が出来るよう支援している。また、入所してから地域の方々と馴染みの関係を築ける様、地域に出ることも積極的にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、利用者同士の関係性を把握し、互いが自然と相談し合い、助け合える環境作りに努めている。職員はそれを見守り、必要に応じて仲立ちをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時も利用終了後も、築いてきた関係性を大切に、気軽に立ち寄り、話や相談ができるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを日常の支援の中で探り、時には家族からの情報も得ながら、実現に向けて支援している。本心はどこにあるのかを見極め、本人の意向を導き出せるよう職員間での話し合いや検討を繰り返している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報に加え、入居後の本人や家族との対話から多くの情報を得る事で、その人らしさを知り、振り返ることができる状況を作っている。本人のこだわりを形にする為に、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活スタイルやこだわりの把握に努める。その中で利用者同士出来ることを探し、認め合い、その方の有する力の発揮と現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、本人、家族、主治医、職員等で様々な角度から意見を出し合い、介護計画に反映させている。また、介護計画に沿った支援がどのようにすれば出来るかを、職員は常に考え、話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や職員間のノートに日々の様子等の記録をし、日々変化していく細かな状況の把握と情報共有に努めている。統一された支援をしていけるよう話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応じ、ショートステイや共用型デイサービスの受入を積極的に行っている。また、通院や家族との外出の同行支援、理美容、歯科、マッサージ等、様々な支援やサービスを利用する事ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	顔馴染みのお店の店員、民生委員、近隣住民の力を借りて、利用者のみでの散歩や買物、外食等の取り組みが安全に実現できるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族からの希望があるかかりつけ医との情報共有に努め、適切な医療が受けられるよう24時間体制で連携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の検診時含め、電話での状況報告、連絡、相談が常に出来、利用者から医師や看護師に直接相談出来るよう仲立ちもしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実際に病院へと何度か足を運び、本人・家族と話をし、気持ちの安定を図っている。 また、早期退院へ向けて、今後必要となる支援について様々な職種から意見をもらい、家族と共にチームで取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び、状態変化時、重度化した場合の意向確認を行っている。看取り介護を特別なことと考えず、最期の時まで、その人らしさを形にする事ができるよう、日々、思いを引き出す関わりに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や書面で学び得たものと、現場での経験により、身に付けた実践力により、より良い方法を導き出し対応をしている。 次に繋がる判断力や実践力を身に付けられるよう、常に振り返りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼夜間設定の避難訓練を実施している。利用者4人を防災委員として任命し、定期的に委員会を開き、利用者自身が役割を持って取り組めるよう、環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ介助等は、特に利用者の思いに寄り添い、露出面を出来る限り少なくするようバスタオルを掛けたり、細かな配慮に心がけている。常に一人の人として扱い、作業とならぬよう、職員同士振り返り、確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員の間関係だけでなく、利用者同士の関係性構築に尽力し、自由に思いや意見を言い合える雰囲気作りに繋げている。また、自己決定できるよう、選択方法等にも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペース、生活を大切にしつつ、自然に他者との活動が生まれる環境作りに努めている。日々の生活から共同生活をしていることを意識づけ、自分らしい暮らしにプラスα、他者と共に生活することに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みやこだわりを大切に、着替え等も自己決定出来るよう支援している。 訪問理美容では、美容師さんとの馴染みの関係性も生まれ、希望等も話し易い状況である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を皆で話し合い、個々の能力に応じて分担し、補い合いながら調理している。食事中、食後も利用者と職員がゆったり会話を楽しめるような雰囲気作り、環境作りに取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に限らず、利用者同士ですすめ合えるよう、手の届くところに水分を置き、いつでも飲める環境を整えている。また、利用者のその時の状況に応じ、食べやすい形状に変えたり、工夫をし、栄養を摂ってもらえるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活習慣の一つとして、本人が自覚して行えるよう見守りや声掛け、手助けや確認等、個々に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう、利用者の動きや表情からサインを読みとり促している。 排泄表や時間にこだわらず、個人の排泄状況を把握して、適切な支援に努めている。 日中、夜間共に変わらぬ支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体調、身体状況や排泄パターンを把握する。食品等で本人の体質に友好的な物を利用し、併せて、適度に体を動かす事を促している。 また、必要に応じ主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも本人のタイミングで入浴でき、好きな入浴剤を選び、ゆったり楽しんで頂ける環境がある。また、他事業所にある大風呂へ出向き、皆で賑やかに入浴し、背中を流し合ったりすることで、楽しい入浴と関係性作りに繋げている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間やそれまでの過ごし方等、習慣や状況に応じて個別の支援をしている。 寝られなければ一緒にお茶を飲み、気持ちを聞いたり、会話することで安心して気持ち良く眠れるよう寄添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を服用しているか、本人、職員共に把握と確認をし合いながら、副作用についても理解することで、服用状況、経過などを踏まえた体調の変化に気付けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とすることを表現でき、役立てることにより、楽しみや活力に繋げている。また、他事業所に遊びに出掛け、交流する事で、新しいコミュニティの場となり、気分転換にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の関わりから、本人の行きたい所、やりたいこと等、目的や思いに寄り添い、希望に沿えるよう支援している。 一人での外出、利用者同士での外出、遠方への外出等、様々な外出の実現の為、地域の人、家族の協力を得ながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持して必要に応じて支払うことを当たり前の行為と捉え、外出時にはご家族よりお小遣いを預かり、お買物が楽しめるよう支援している。また、ホームの日常の買い物の際も、支払いは利用者が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談・協力を得ながら電話や手紙など、その方が出来る方法でやりとりが継続出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階、二階のフロアをその日、その日によって、様々な活動に使用し、他者との交流を楽しめ、安らげる場所へと役立てている。 また、庭先に季節の花や野菜を育てることで、季節感を採りいれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のその日のやりたい事(趣味活動)等、状況にあわせた空間配置をしている。 利用者が一階、二階を自由に行き来することで、気の合う者同士が時間を共有している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、使い慣れた家具や若い頃の写真等、思い出のある物を置き、落ち着ける空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい、取り出しやすい等、住人目線での家具や物品の配置、安全に配慮した生活導線の確保に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500774		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウスごらく 2階		
所在地	愛知県名古屋市長区極楽2丁目232番地		
自己評価作成日	令和元年 8月 9日	評価結果市町村受理日	令和元年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2371500774-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和元年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人では出来ない事も、利用者同士で相談し、助け合いながら、自分達で生活をされています。職員は、それを見守る事で本当に必要なところだけを見極め、支援し、利用者のできることの継続と、新たな発見に努めています。利用者、職員と共に生活し、家族のような温かい関係性を築き、生きる楽しみ、生甲斐に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念(基本方針)に地域住民との心の触れ合いや開かれた生活環境を謳っている。常に一つ一つの支援が理念に結びついているかを意識し、互いに確認し合いながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者が地域のスーパーやお店に通い、職員はその仲介をし、顔馴染みの関係性を構築している。また、回覧板を回したり、地域行事に積極的に参加するなどし、一人の住人であるという意識を双方に根付かせる支援を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験実習を受け入れている。地域の方より相談を受けた時は、それに応じ、力になれるよう情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告すると共に、地域に理解を得たいこと、自然に地域と関わられるよう、相談し、協力を依頼している。また、率直な意見を頂き、サービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や来所時に現場の状況や考え方を報告し、取り組み等の情報も伝えている。話題が上がったことや、問題が発生した場合は、早期実現・解決に向けて地域包括センター等に協力を仰いでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守る事を基本とし、利用者一人一人において何が拘束になるのかを具体的に話し合い、職員間の意識を統一している。言葉一つ一つを大切に、対応に当たるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	振り返りや話し合いの場を設け、普段何気なく行っている関わりが虐待に当たるのか否かを考え、意見を出し合っている。その都度、注意し合う事で、見過ごし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修などで学ぶことができる。利用者の状況に合せ、必要なものを活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、変更時等は個別面談をし、理解・納得を得るよう努めている。また、随時、不安や疑問点の解決が出来るような間柄を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の思いに気付けるよう、日頃から何気ない会話から様々な気持ちを汲み取っている。その思いを実現する為に、出来る事は全て取り組む。また、実現不可能な要望に対しては、理由をしっかりと説明し、理解を得るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の会議や個別面談時等、意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の具体的な状況を把握し、給与水準・労働時間等の環境を整えている。日々の努力や実績、勤務状況を把握し、処遇に反映することで向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性と力量を把握したうえで、立場や経験に応じた研修の機会の確保に努めている。研修により学習したことを実際の現場で実施し、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として積極的に全国の同業者との交流機会を職員に推進し、広く視野や見識を得ることで、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは安心して頂けるように気持ちを受け止め、共に考え、悩みに向き合っている。 その積み重ねにより信頼関係を築き、話し易い関係性を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や入居申し込み面談時に、じっくり時間をかけて、話に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と情報を共有し、しっかり思いを受け止め、必要な支援を見極めていく。 また、必要に応じて他の介護サービスについての説明、提案をすることで、様々な選択肢の中から、家族と共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、他利用者含め、生活を共にする家族のような存在と位置づけ、互いに支え合い、意見を言い、同じ立場で生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時には家族が利用者の部屋に泊まり、家族と利用者との過ごす時間を出来る限り多く取ってもらうなど、昼夜を問わず共に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が今まで築いてきた馴染みの人や馴染みのお店等との関係性を大切に、気軽に訪問、外出が出来るよう支援している。また、入所してから地域の方々と馴染みの関係を築ける様、地域に出ることも積極的にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、利用者同士の関係性を把握し、互いが自然と相談し合い、助け合える環境作りに努めている。職員はそれを見守り、必要に応じて仲立ちをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用時も利用終了後も、築いてきた関係を大切に、気軽に立ち寄り、話や相談ができるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを日常の支援の中で探り、時には家族からの情報も得ながら、実現に向けて支援している。本心はどこにあるのかを見極め、本人の意向を導き出せるよう職員間での話し合いや検討を繰り返している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報に加え、入居後の本人や家族との対話から多くの情報を得る事で、その人らしさを知り、振り返ることができる状況を作っている。本人のこだわりを形にする為に、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活スタイルやこだわりの把握に努める。その中で利用者同士出来ることを探し、認め合い、その方の有する力の発揮と現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、本人、家族、主治医、職員等で様々な角度から意見を出し合い、介護計画に反映させている。また、介護計画に沿った支援がどのようにすれば出来るかを、職員は常に考え、話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や職員間のノートに日々の様子等の記録をし、日々変化していく細かな状況の把握と情報共有に努めている。統一された支援をしていけるよう話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応じ、ショートステイや共用型デイサービスの受入を積極的に行っている。また、通院や家族との外出の同行支援、理美容、歯科、マッサージ等、様々な支援やサービスを利用する事ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	顔馴染みのお店の店員、民生委員、近隣住民の力を借りて、利用者のみでの散歩や買物、外食等の取り組みが安全に実現できるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族からの希望があるかかりつけ医との情報共有に努め、適切な医療が受けられるよう24時間体制で連携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の検診時含め、電話での状況報告、連絡、相談が常に出来、利用者から医師や看護師に直接相談出来るよう仲立ちもしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実際に病院へと何度か足を運び、本人・家族と話をし、気持ちの安定を図っている。 また、早期退院へ向けて、今後必要となる支援について様々な職種から意見をもらい、家族と共にチームで取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び、状態変化時、重度化した場合の意向確認を行っている。看取り介護を特別なことと考えず、最期の時まで、その人らしさを形にする事ができるよう、日々、思いを引き出す関わりに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や書面で学び得たものと、現場での経験により、身に付けた実践力により、より良い方法を導き出し対応をしている。 次に繋がる判断力や実践力を身に付けられるよう、常に振り返りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼夜間設定の避難訓練を実施している。利用者4人を防災委員として任命し、定期的に委員会を開き、利用者自身が役割を持って取り組めるよう、環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ介助等は、特に利用者の思いに寄り添い、露出面を出来る限り少なくするようバスタオルを掛けたり、細かな配慮に心がけている。常に一人の人として扱い、作業とならぬよう、職員同士振り返り、確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員の間関係だけでなく、利用者同士の関係性構築に尽力し、自由に思いや意見を言い合える雰囲気作りに繋げている。また、自己決定できるよう、選択方法等にも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペース、生活を大切にしつつ、自然に他者との活動が生まれる環境作りに努めている。日々の生活から共同生活をしていることを意識づけ、自分らしい暮らしにプラスα、他者と共に生活することに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みやこだわりを大切に、着替え等も自己決定出来るよう支援している。 訪問理美容では、美容師さんとの馴染みの関係性も生まれ、希望等も話し易い状況である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を皆で話し合い、個々の能力に応じて分担し、補い合いながら調理している。食事中、食後も利用者と職員がゆったり会話を楽しめるような雰囲気作り、環境作りに取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に限らず、利用者同士ですすめ合えるよう、手の届くところに水分を置き、いつでも飲める環境を整えている。また、利用者のその時の状況に応じ、食べやすい形状に変えたり、工夫をし、栄養を摂ってもらえるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活習慣の一つとして、本人が自覚して行えるよう見守りや声掛け、手助けや確認等、個々に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう、利用者の動きや表情からサインを読みとり促している。 排泄表や時間にこだわらず、個人の排泄状況を把握して、適切な支援に努めている。 日中、夜間共に変わらぬ支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体調、身体状況や排泄パターンを把握する。食品等で本人の体質に友好的な物を利用し、併せて、適度に体を動かす事を促している。 また、必要に応じ主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも本人のタイミングで入浴でき、好きな入浴剤を選び、ゆったり楽しんで頂ける環境がある。また、他事業所にある大風呂へ出向き、皆で賑やかに入浴し、背中を流し合ったりすることで、楽しい入浴と関係性作りに繋げている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間やそれまでの過ごし方等、習慣や状況に応じて個別の支援をしている。 寝られなければ一緒にお茶を飲み、気持ちを聞いたり、会話することで安心して気持ち良く眠れるよう寄添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を服用しているか、本人、職員共に把握と確認をし合いながら、副作用についても理解することで、服用状況、経過などを踏まえた体調の変化に気付けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とすることを表現でき、役立てることにより、楽しみや活力に繋げている。また、他事業所に遊びに出掛け、交流する事で、新しいコミュニティの場となり、気分転換にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の関わりから、本人の行きたい所、やりたいこと等、目的や思いに寄り添い、希望に沿えるよう支援している。 一人での外出、利用者同士での外出、遠方への外出等、様々な外出の実現の為、地域の人、家族の協力を得ながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持して必要に応じて支払うことを当たり前の行為と捉え、外出時にはご家族よりお小遣いを預かり、お買物が楽しめるよう支援している。また、ホームの日常の買い物の際も、支払いは利用者が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談・協力を得ながら電話や手紙など、その方が出来る方法でやりとりが継続出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階、二階のフロアをその日、その日によって、様々な活動に使用し、他者との交流を楽しめ、安らげる場所へと役立てている。 また、庭先に季節の花や野菜を育てることで、季節感を採りいれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のその日のやりたい事(趣味活動)等、状況にあわせた空間配置をしている。 利用者が一階、二階を自由に行き来することで、気の合う者同士が時間を共有している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、使い慣れた家具や若い頃の写真等、思い出のある物を置き、落ち着ける空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい、取り出しやすい等、住人目線での家具や物品の配置、安全に配慮した生活導線の確保に努めている。		